



子どもの便秘〜排便は日常のとても大切な行為〜

京都保健会子ども診療所3診合同学習会

京都民医連かみの診療所 師長 馬淵直子

3月30日(木)かどの三条こども診療所にて、6回目の京都保健会小児科診療所(吉祥院こども診療所、かみの診療所、かどの三条こども診療所)合同学習会が開催されました。

世間のトイレ事情も大きく様変わりし、洋式トイレでないと排便できない子ども達。幼稚園や小学校で落ち着いて排便できない子ども達。朝は時計とにらめっこ!「早く、はやく」と急かされ、いつ、どこでウンチしたらよいかわからない子ども達…。

子どもの便秘は、いまや6人に1人。小児科スタッフは日々便秘の子ども達と向き合っ中、「子どもの成長にあわせた支援って?」「他にも療養指導できることは無いの?」



実演!「健肛音頭」
by倉田先生

と疑問が出てきました。そこで、元吉祥院病院長長であり、長きにわたり肛

較してとてもコンパクトにまとめ上げた基本設計となっております。現在、建築費用を予算内におさめるための再検討に入っています。極力診療機能には影響をさせず、部分的な最適化、様々な発想で削減ができるようVE(Value Engineering)方式(入札時に設計の提案を標準案とし、施工方法を限定せず、コスト削減あるいは品質向上を図るもの)の検討を進めています。職員の知恵を結集して、何とか計画を予定通り進めていきます。

門科の医師としてご活躍されている倉田正先生に「子どもの便秘」についてご講演いただきました。参加者は小児科スタッフ24名、一般参加4名の計28名でした。事前に投げかけた質問への応答から始まり、ウンチを取り巻く壮大な話へ発展していき、拭き方やウォッシュレットの使い方、人の暮らしとウンチの関係性、排便教育の時期とその方法など、多岐にわたる内容でした。



排便は日常の中でも命をかけた最も危険なイベント!だからその後は10分程度ホットする時間が大切と聞いて、一同納得。「食べて排泄する、普段当たり前のようにしていることが、実は身体の働きがあつて、当たり前でなく、いろんなタイプの人がいて、でもとても大切なことであることや身体のメカニズムなども含めた皆さんのことを学びました」(感想より)

本場の「健肛音頭」も飛び出し、実践的なことを楽しく学べた貴重な学習会となりました。

友の会 活動家紹介

丹後健康友の会 運営委員
井上義昭さん



井上義昭さんは、旅行とカメラが大好き。年中、重いカメラを持って国内のいろんなところを走り回っております。

丹後健康友の会では、十年以上にわたって、専属カメラマンとして大きな行事には欠かさず参加し、たくさん記録を残してください。また、文化・レクリエーション担当として、日帰り旅行の計画から当日のマイクロバスの運転手として引き受けてくださり、下見にも納得がいくまで行って、入念に行程を組み立ててくださっています。他の委員に気を遣わせまいとの心遣いでしょう。「自分の旅行の通り道だった」などとさらりと言われます。

普段の活動も原則的で、役員会にはたいい一番に来て、「みんなで分けて」と旅行のお土産をいただくことも度々。

気がよく、サービスマン精神旺盛、フットワークも軽い義昭さんには、いつも頭が下がります。

(丹後健康友の会 廣谷恵子)